

# JA種子屋久 2018年度



## 1 農業所得の増大・農業生産の拡大

### 農家経営支援センターの取り組み

#### ☆総合渉外活動 (TAG)

各部署や関係機関と連携し、農家・組合員の元へ直接訪問することにより農業における技術面や経営面の指導支援を行いました。



～TAGとは？～  
Teamtaneyaku Adviser Goodwillの略称  
親切心を持って農家と向き合います！

#### 《農家・組合員・法人訪問実績》

地区	農家・組合員	法人数
西之表	371件	68件
中種子	359件	149件
南種子	304件	56件
屋久島	308件	34件
合計	1,342件	307件

#### ☆担い手・法人への対策

市町村・関係機関と連携し徹底した情報発信を行い、担い手、新規就農者の人材確保や育成に取り組みました。また、農業経営の法人化に対する支援を行いました。

#### 《担い手・新規就農者に対する取り組み》

- ✓就農相談や研修、指導を行いました。
- ✓集落営農組織を1団体設立。
- ～法人化への支援・対応～
- ✓当該年度中に1件の法人化を実現。
- ✓法人化実現後も支援を継続し、相談・対応を行います。

- ～農家・組合員からの主な意見要望～
- ・農協入り口には各部署の場所案内板がないので設置していただきたい。
  - ⇒建物入り口に案内図を掲示した。
  - ・子供が後継者として帰ってきたので、機械類の購入を考えている。無利子の融資、また新規認定農業者の手続き方法を教えていただきたい。
  - ⇒融資相談を行うとともに、認定農業者の手続き説明と書類作成支援を行った。
  - ・屋久島での夏場の新規品目を検討していただきたい。
  - ⇒2019年度より、オクラを新規品目として取り組みます。



# 自己改革活動報告

## 《TAGの対応例》



#### 【農家の経営概況・相談内容】

経営 青果用甘藷 500a 栽培  
概況 スナップエンドウ 25a 栽培  
経営が思うようにいかないため、経営分析を行い、今後の方向性を一緒に考えて欲しい。



#### 【今後の取り組み】

引き続き、県と連携しながら定期的な経営カウンセリングを行っていきます。

#### 【TAGの対応】

県と連携し経営カウンセリング、コンサルを実施し、労働力を含めた、作付けする作物や面積を提示しました。

#### 【農家との話し合いの結果】

平成30年度の青果用甘藷500aの内、200aを加工用として出荷することで、期間内の出荷作業や労力の減少に繋がりが、スナップエンドウの適期管理作業ができる状態になりました。

#### ☆青色申告会による税務支援

青色申告会において会員数拡大を図るとともに、記帳代行システムの活用により、組合員の農業経営管理支援を行いました。

#### JA種子屋久 青色申告会



#### ＜青色申告会業務実績＞

地区	会員数	申告支援人数	記帳代行人数
西之表	113名	110名	101名
中種子	273名	272名	201名
南種子	81名	81名	53名
合計	467名	463名	355名







## 2 農業者のコスト抑制対策の実施

- ①部会組織肥料予約結集推進対策として、農家の生産コスト削減とJA部会組織の活性化を支援しました。(1袋あたり10円～50円助成：種子島9部会・屋久島1部会)
- ②大口取引先等への事業利用分量に応じた購買資材価格の値引き・助成を行いました。
  - ✓乾草大口需要対策(1個あたり45円～100円助成)
  - ✓肥料大口需要対策(1袋あたり40円助成)
  - ✓肥料大規模農家対策(1袋あたり100円～250円助成)
  - ✓予約肥料・飼料の単価値引き(全品目1袋あたり22円～27円値引き)
  - ✓春肥予約肥料自己取り助成(1袋あたり30円～40円値引き)
- ③農薬フェアによる価格引き下げを実施しました。
  - ✓取扱品目(12品目)／各品目15%価格引き下げ
- ④株出し用マルチフェアによる価格引き下げを実施しました。
  - ✓1本あたり328円引き下げ
- ⑤粗飼料(乾燥草)特別販売フェアによる価格引き下げを実施しました。
  - ✓オーツヘイP1個あたり15%価格引き下げ
- ⑥飼料用肥料特別販売フェアによる価格引き下げを実施しました。
  - ✓取扱品目(2品目)100円～200円引き下げ
- ⑦南九州3県合同仕入による農業機械の販売を実施しました。
  - ✓取扱品目(1品目)／30%価格引き下げ
- ⑧各部会・振興会との話し合いにより、地域営農ビジョンを新たに3品目策定し、品目ごとに5年後の数値目標と具体的な取り組み事項などを計画化しました。
  - ✓3品目策定：澱粉原料用甘藷・ブロッコリー・バレイショ
- ⑨繁殖雌牛増頭対策として、生産基盤の維持・強化を図るために畜産農家経営をサポートしました。
  - ✓増頭奨励金 1頭あたり5,000円助成／助成総頭数 378頭
  - ✓自家保留牛 1頭あたり10,000円助成／助成総頭数 568頭
  - ✓生産性向上対策費(イゾーブリードの助成) 1頭あたり2,000円助成／助成総頭数 1,691頭
  - ✓異常産ワクチン対策費 1頭(2回接種)あたり1,805円の助成／助成総頭数 1,150頭
  - ✓損耗防止対策費 1頭あたり250円の助成／助成総頭数 5,027頭
- ⑩サトウキビ増産基金事業(セーフティーネット基金)
  - ✓生産性向上支援事業(春・秋)新植に対する対策の実施(種苗助成)
  - ✓自然災害被害対策事業(春)新植に対する立替金の対応
- ⑪生分解マルチの被覆による生産性向上と労働力軽減対策
  - ✓秋・春植えマルチ試験拡張(秋植え200本・春植え400本)
  - ✓澱粉原料用甘藷の生分解マルチの普及拡大(455本 12.8ヘクタール)
- ⑫優良種苗支援対策
  - ✓澱粉原料用甘藷・青果用甘藷バイオ苗、定植用苗の助成
  - ✓育苗ハウス・トンネル資材の助成
- ⑬さとうきび管理用トラクターアタッチメント一部助成(9台)
- ⑭廃プラ処理費用値上げに伴う各対策協議会への助成
- ⑮シカ対策資材(ネット・支柱)の一部助成

今後も農家の皆様の所得向上・コスト抑制のために対策を行います

## 地域の活性化 3



### ☆組合員・地域住民とのふれあい

育てよう笑顔プロジェクト(左上)による地域清掃活動や子ども達の農業体験(右上)、アンパンマンこどもくらぶ(左下)での赤ちゃんとお母さん同士のふれあい、12月にはJAまつり(右下)を開催しました。



### 《組合員との徹底した話し合い》

⇒JAでは、農畜産物販売事業や購買事業の進め方について事業計画等で整理し、以下の話し合いを行いました。いただいた意見を事業運営に反映しています。

集落座談会(6月13日～14日)、営農座談会(8月～9月)、総代会(6月28日)、認定農業者との話し合い(5月～9月)、農業法人との語る会(11月30日)、各部会・振興会役員会及び総会(4月～3月)、組合員宅訪問活動(毎月)

⇒当JAの役員について、認定農業者6名、実践的能力者4名を含む11名で構成されています。令和元年6月の役員改選に向けて、広報誌等で役員の選び方等に関する情報を共有し、各地区の組合員で構成される役員推薦会議等で、選出の手続きを行っています。

